

2024年 新年交歓会

『未来を切り開く新しい印刷産業へ向けて』 —人数制限を解除し盛大に開催—

新しい年の幕開けを祝う一般社団法人日本印刷産業連合会(北島義斉会長)主催の「2024年新年交歓会」は、1月10日(水)午後4時30分から東京・虎ノ門のThe Okura Tokyo 平安の間で開催された。今年は人数制限を解除し、コロナ以前の2020年以來4年ぶりに歓談をメインとした新年交歓会となり、経済産業省をはじめ、政界・産業界からのご来賓、会員10団体や関連業界団体の皆様など478名をお迎えし、活気に満ちた会を開催することができた。

日印産連 北島会長の主催者代表挨拶、経済産業省 商務情報政策局 審議官の牛山智弘氏による来賓祝辞に続き、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会 会長 山田周一郎氏の乾杯のご発声によって開宴。交歓会の途中には多くの祝電が披露され、お祝いに駆けつけた山田美樹衆議院議員から新年の抱負と激励の言葉をいただいた。

中締めは日印産連会員10団体の会長が登壇し、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会 岡本 泰会長のご挨拶によって、盛況のうちに終了した。

主催者代表のご挨拶

主催者を代表して新春のご挨拶に立った北島義斉会長は、まず「令和六年能登半島地震で亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々、ご関係の皆様にお見舞いを申し上げます。今後も国内外で自然災害などが発生する可能性があります。不測の事態に対しても印刷業界として一体となって、事業の継続に努めてまいりたいと思います」と述べたのち、「皆様の多大なお力添えのもと、こうして制限のない新年交歓会を4年ぶりに開催できますことに、深く感謝申し上げますとともに、新たな目標に向けて皆様と歩みを進めていけることを心より嬉しく思います」と、ご出席いただいた方々への謝意を伝えた。

続いて「昨年を振り返りますと、国内では、コロナによる行動制限が緩和され、個人消費やインバウンド需要が増加するなど、緩やかな回復が見られました。一方、国際的には、地政学的なリスクがさらに高まるなか、さまざまな価格の上昇や為替変動等もあり、先行き不透明な状況が続きました。

私たち印刷業界では、紙の印刷需要の減少に加え、用紙・フィルム等の原材料費やエネルギーコストの上昇等、厳しい経営環境が続くなかでも、デジタル技術を活かして働き方や暮らしを変革する「DX」の進展などがありました。また、地球環境に対する人々の意識の高まりを受けて、新たな需要も見込まれています。

こうしたなか、日印産連は昨年12月に「グランドデザイン2030」再構築プロジェクトを立ち上げました。これは、長期的な視点に立って会員10団体の皆さんとともに、「2030年の印刷産業のありべき姿」を見据え、未来を切り拓いていく新たな挑戦です。

従来の「印刷」を再定義し、新しい印刷産業の姿を示す「ビジョン」と、その実現に向けて日印産連が取り組む「ミッション」を掲げ、それを達成させるための具体的な「アクションプラン」を策定します。

その実現に当たっては、経済産業省をはじめ、関係省庁や関



挨拶をする北島義斉会長

連業界団体の皆様との連携をさらに深めて、新たな産業イメージの構築と発信に努めていき、さらなる事業領域の拡大や付加価値の創出を進め、持続可能な環境・社会・経済の実現に、取り組んでまいります。

私たち印刷産業は常に、人と人との心豊かなコミュニケーションを支え、文化を育んできました。また、さまざまな社会課題の解決に取り組むとともに、あらゆる業界とつながって、その事業を支援するなど、社会とそこで生きる人々、また全ての産業にとって欠かせない存在であると考えています。

例えば、脱炭素社会の実現に向けて、再生可能な素材の開発、エネルギー効率の向上、廃棄物の削減など、印刷産業全体で環境に配慮した取り組みを推進しており、持続可能性を重視したビジネスモデルへの移行に努めています。

また、AIも積極的に活用して、データ分析による最適な生産計画の立案や生産効率の向上、労働力不足の解消など、新しい価値につなげていきたいと考えています。

私たち印刷産業だからこそ、デジタルとアナログ、モノづくりと情報サービスの両方の強みを活かすことができますし、付加価値



来賓祝辞・牛山智弘経済産業省
商務情報政策局審議官



乾杯のご発声・プリデジ協
山田周一郎会長



祝辞を述べる
山田美樹衆議院議員

を高めることができます。

2024年は、新しい業態に向けた変革への挑戦を加速させて、より良い環境・社会・経済に、しっかりと貢献していきたいと考えています。

今年の干支は甲辰です。辰年は変革や激動などで時代が大きく動く年であり、また、これまでの努力が叶う年であると言われています。ぜひ、皆様とともに、新たなビジネスチャンスや可能性を広げていく一年にしたいと思います」と述べ、年頭の挨拶とした。

ご来賓祝辞

ご来賓を代表し経済産業省 商務情報政策局 審議官の牛山智弘氏より「印刷産業を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。こうした中、販促領域におけるソリューションサービスや包括的な受注の推進、デジタル領域でのサービス展開など、お客様の多様なニーズにきめ細やかに応えていくには、主要関連企業の収益基盤の強化を進めていくことが印刷産業の持続的な成長につながるものと考えております。こうした成長を実現していくため、日本印刷産業連合会ではDXや環境配慮などのSDGsの達成に精力的に取り組まれているほか、関連10団体の総括や情報発信を担っていただいております。そして2030年を見据えた業界のグランドデザインの再構築に向け、議論を進められているものと承知しております。

長年培われた印刷技術と新たなサービスを組み合わせるこ

とで、事業領域の拡大やお客様に喜ばれる高付加価値サービスの提供を進めていただき、我が国の経済の牽引役となっていくことを期待しております。経済産業省は印刷業界を始めとする製造業のDXシーンや生産性を向上させる前向きな設備投資への支援を持って、皆様を応援させていただきます。

また、印刷事業者はそれぞれ多数の取引先を有しており、且つその取引において親にも子にもなることから、取引構造の改善や、価格転嫁が印刷産業の発展に向け、解決すべき重要な課題であると認識しております。その処方箋として経済産業省では、昨年度、印刷業界の皆様とともに適正な取引推進に向けた方策等を検討し、下請ガイドラインを改訂いたしました。さらに昨年の9月には適正取引の推進に向け日本印刷産業連合会を中心として、自主行動計画を改定していただくとともに、自主行動計画の徹底プランを策定していただいたところです。価格転嫁のうち特に労務費については、内閣官房と公正取引委員会が連名で「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」を昨年11月に発表しており、ここに書かれた対応についても引き続き皆さまと連携して、粘り強く取り組んでまいりたいと考えております。

今年は十干十二支の甲辰であり、これまでの努力が実って夢が叶い易い年と言われております。新年元旦より大変な困難に見舞われておりますが、印刷産業が昨年までに積み上げてきた努力が形となり、さらなる発展を実現できる年となりますようご期待申し上げます。我々経済産業省も皆さんの後押しができるよう尽力してまいります」と祝辞、応援の言葉をいただいた。





懇親会 開宴

各テーブルに乾杯用の飲み物が準備され、プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会 会長 山田周一郎氏の新春にふさわしい乾杯のご発声で懇親会が開宴した。

「今日は日本印刷産業連合会の新年交歓会にお招きいただき、誠にありがとうございます。まず、ひと言ご挨拶させていただく前に、能登地方を震源とした大規模地震で亡くなられた方にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方にお見舞い申し上げます。1日でも早い復興復旧を切に願っております。

昨年は不透明かつ不確実な環境でありましたが、明るい話題もありました。特に技術においては、目まぐるしい発展がありました。特に生成AIです。これは瞬く間に注目され新しいビジネスモデルであるとか、新しいビジネス要請等々が発表されて、新しい息吹を感じた1年であったと思います。

今年は甲辰ということで、新しい変化と新しい成長という年でございますので、私どもも成長するとともに、皆様とご一緒に新しい風を吹かすような年にしたいと考えております。乾杯!」

それぞれが一斉に杯を上げ会食がスタートし、会場は賀詞交換や新年の挨拶が交わされる晴れやかな歓談の場となった。

祝宴の途中に駆けつけた山田美樹衆議院議員からは、お祝いの言葉のあと「多くの課題がある中で、人手不足が大きな問題だと承知しております。これには2つの解決策があるかと思っております。ひとつは昨年の暮れに令和5年補正予算の中で、カタログ形式で人手省力化のための機材あるいはシステムを導入していただけるような予算作りを経済産業省主導で組んでいただきました。この春先にはこのカタログの準備もできてくると伺っています。是非ご活用いただければと思います。

そしてもうひとつ、外国人労働者を活用していくお話でございます。法務省の方でも有識者の検討会などを中心に、今後の外国人労働者の制度のあり方について、特定技能・技能実習の制度の改善がなされたところでございます。皆様方の業界のニーズに合わせた新しい制度作り、私も微力ながら貢献していきたいと思っております」とのスピーチをいただいた。

中締めのご挨拶

歓談が繰り広げられ、たくさんの祝電が披露されるなど、昨年以上に賑わった会も午後6時に中締めを迎えた。恒例により10団体の会長が壇上に揃い行われた記念撮影は、全員が微笑みながら肩を組んで臨むという和やかなひと幕となった。

「元旦から暗いニュースもありましたし、印刷業界もいろいろ苦境でございます。大変ではございますが、まだまだ我々が果たすべき産業界における印刷業の使命は、まだまだあると思っております。印刷にこだわる会社、こだわらない会社といろいろな在り方があると思っております。でも、今まで私たちが培ってきた印刷産業のノウハウを使って産業界に貢献する、この使命は変わらないと考えております。私は印刷が大好きです。10団体を含めた印刷産業に携わる者たち、それを支えてくださっている会社の方々が、やっつけて楽しい・嬉しいと思う働きがいのある仕事を作れるように、我々が頑張らなければいけないのではないかと思います。そして、より幸せになるにはどうしたらいいかを今後益々考えていきたいと思っております。

2月にはpage2024がございます。この会場で、印刷産業が新たなステージに向かっていく、それをどうやって産業界に貢献するかの提案を見ていただき、印刷産業のパワーを感じていただきたいと思っております。

我々はもっともっとやれると信じております」と、日本グラフィックサービス工業会の岡本 泰会長より中締めのご挨拶が行われ、力強い言葉とともに2024年新年交歓会は盛況のうちに閉会となった。



中締めの首頭をとる
日本グラフィックサービス工業会 岡本泰会長

2024年 新年交歓会

一般社団法人 日本印刷産業連合会



10団体の会長が登場